令和5年度

教育に関する事務の管理及び

執行の状況の点検・評価報告書

あいさつ運動

中学生だっぴ

花ござピンポンチャンピオン大会

はやしま子ども議会

令和6年3月

早 島 町 教 育 委 員 会

－　目　　次　－

Ⅰ　はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
①　点検評価の趣旨
②　点検評価の対象及び方法

Ⅱ　教育委員会の活動状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
①　教育委員会会議の開催
②　研修会及び協議会
③　総合教育会議

Ⅲ　教育委員会の所管する事務事業の管理・執行の状況　・・・・・　5
1　教育委員会の体制　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
2　教育委員会の点検・評価の視点　・・・・・・・・・・・・・・・　5
3　教育委員会が管理・執行する事務の点検・評価　・・・・・・・　5
①　会議の運営等
②　教育委員会の公開性
③　基本的・総務的な事務の管理
④　人的管理事務
4　学校教育重点事業に対する評価・・・・・・・・・・・・・・・・　9
①　数値結果
②　重点事業
5　生涯学習重点事業に対する評価・・・・・・・・・・・・・・・・　１３
①　重点事業

Ⅳ　第５次早島町総合計画の評価項目について　・・・・・・・・・・　２２

Ⅴ　点検・評価に関する有識者からの意見　・・・・・・・・・・・・　２３

Ⅵ　おわりに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２４

Ⅰ　はじめに

①　点検評価の趣旨

平成１９年６月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）が改正され、全国の教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出し公表することが義務づけられました。

本報告書は、地教行法第２６条に基づき点検及び評価を行い、その概括を報告するものです。

②　点検評価の対象及び方法

教育委員会が令和５年度に実施した事務事業のうち、主要事業について自己点検し、評価を行いました。

また、本報告書を作成するに当たっては、教育委員会に意見を求め、個々の事務事業だけでなく総合計画・基本計画の施策体系を視野に入れ、課題や今後の方向性などについてまとめました。

〈参考〉
地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）
第２６条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第３項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅱ　教育委員会の活動状況

①　教育委員会会議の開催

教育委員会の委員

役職名	氏　　名	性別	任　　期
教　育　長	白神　敬祐	男	R4. 4. 1 ～ R7. 3.31
教　育　長 職務代理者	栗坂　祐子	女	R4.10. 1 ～ R8. 9.30
委　　員	綾野　克紀	男	R2. 4. 1 ～ R6. 3.31
委　　員	市橋　　晃	男	R3. 4. 1 ～ R7. 3.31
委　　員	岡本　善弘	男	R4. 4. 1 ～ R8. 3.31

審議案件等

開催日	議　決　等　事　項
４月２８日（金）	【議決事項】 （１）早島町教育委員会が保有する個人情報の保護等に関する規則の制定について 【議事事項】 （１）令和５年度の教育施策の概要について
５月２６日（金）	【議事事項】 （１）特別支援学級担任専門性向上事業について （２）令和５年度６月補正予算について
６月２７日（火）	【議事事項】 （１）早島中学校授業参観について （２）６月議会報告について （３）備中はやしま夏まつり・町民運動会について
７月２１日（金）	【議事事項】 （１）備中はやしま夏まつりについて （２）わくわくサマータイムについて （３）タブレット端末の持ち帰りについて

８月２５日（金）	【議事事項】 （１）学力・学習状況調査について （２）働き方改革について （３）町民運動会について
９月２７日（水）	【議事事項】 （１）９月議会報告について （２）熱中症対策の徹底と事故防止の見直しについて
１０月１８日（水）	【議事事項】 （１）早島小学校授業参観について （２）問題行動等調査の結果について （３）子ども議会について
１１月２４日（金）	【議事事項】 （１）令和５年度岡山県市町村教育委員会委員研修会（市町村教育委員連絡協議会）について
１２月２０日（水）	【議決事項】 （１）早島町立学校職員安全衛生管理規程の制定について （２）早島町立学校職員旧姓使用取扱要綱の制定について 【議事事項】 （１）１２月議会報告について
１月３１日（水）	【議事事項】 （１）業務執行体制の整備（機構改革）について （２）子ども議会報告について
２月２２日（木）	【議事事項】 （１）早島幼稚園参観について
３月１１日（月）	【議決事項】 （１）早島町教育委員会事務局組織規則の一部改正について （２）早島町教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部改正について （３）早島町通学路等安全推進会議設置要綱の一部改正について （４）早島町英検受検応援補助金交付要綱の制定について

② 研修会及び協議会

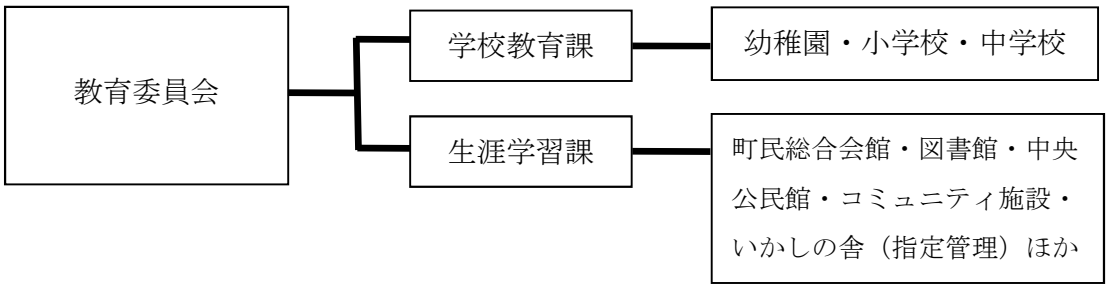
開催日	研　修　会　名　等
６月２９日（木）	令和５年度市町村教育委員会研究協議会（Web 会議） 参加者：教育長、教育委員１名
９月　７日（木）	令和５年度市町村教育委員会研究協議会（Web 会議） 参加者：教育委員１名
１０月２１日（土）	早島中学生だっぴ 参加者：教育長
１０月	令和５年度岡山県市町村教育委員会連絡協議会総会（書面開催）
１１月２４日（金）	令和５年度岡山県市町村教育委員会委員研修会（市町村教育委員会連絡協議会研修会（Web 会議） 参加者：教育長、教育委員４名
３月　９日（土）	第８回はやしま子どもフォーラム、熟議 参加者：教育長

③ 総合教育会議

開催日	議　決　等　事　項
９月２７日（水）	第１回総合教育会議 【議事事項】 （１）教職員の働き方改革について （２）令和５年度早島町通学路等合同点検の結果について
２月２２日（木）	第２回総合教育会議 【議事事項】 （１）令和５年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価について （２）早島町における部活動地域移行に向けての体制整備について （３）令和６年度主要事業について

Ⅲ　教育委員会の所管する事務事業の管理・執行の状況

１　教育委員会の体制



２　教育委員会の点検・評価の視点

点検・評価を行う視点としては、次の項目を基本として行う。

点検・評価の視点	点検・評価する主な内容
①　会議の運営等	会議の回数、円滑な進行
②　教育委員会の公開性	委員会の公開、事業内容等の広報、町長等との連携
③　基本的・総務的な事務の管理	方針・事業計画の計画的実施、事務改善、事業の円滑な実施
④　人的管理事務	教職員等の人事、教育委員会研修の実施

３　教育委員会が管理・執行する事務の点検・評価

①　会議の運営等

（１）会議の回数、円滑な進行

【成果】

○教育委員会１２回、総合教育会議２回を行った。

○議案、協議事項の審議及び報告について厳正に行われた。また、事務局からの事業の進捗状況及びその他の関連事項について、委員と事務局との間で意見交換を行った。

○学校園の授業公開日や行事等に参加して状況を把握し、会議を各学校園で開催して管理職との協議を行った。

【評価】

・毎回の会議で、事業の進捗状況や学校園の様子を理解するなど、円滑に協議を行うことができた。

・オンラインにより会議へ参加することで、会議の充実を図ることができた。

②　教育委員会の公開性

（１）委員会の公開、事業内容等の広報

【成果】

○早島町学校教育ビジョンやはやしま学支援本部の活動等は、ホームページや町広報紙等で広報した。

○教育委員会会議の会議録は毎月ホームページに掲載した。

【評価】

・教育委員会の開催については事前に告示し、会議録は毎月ホームページ上に公開しており、町民に広く周知することができた。

・学校園の取り組みやはやしま学協働本部を中心とした教育活動などを、新聞やテレビなどのメディアも活用して、町民だけでなく町外にも広報していく必要がある。

（２）町長等との連携

【成果】

○年２回開催した総合教育会議では、教職員の働き方改革の状況と通学路等合同点検の結果説明や、次年度予算の主要事業についての説明を行い、毎週の町課長会議等では学校教育や生涯学習等について適宜情報提供を行った。

○幼小中合同の学校運営協議会の事務局を小学校に置き、年６回実施した。保護者の学校評価を年２回実施し、幼小中共通の評価項目を作成し、経年変化を見取り、教育委員会でも成果や課題の共通理解を図った。

【評価】

・学校運営協議会については、部会での活動を取りやめ、学校園を実際に見る機会を作って、学校の活動状況や課題について議論する場を設け、積極的な学校支援に取り組んだ。

・学校教育ビジョンの推進に向けた「英語暗唱大会」「子ども議会」「起業体験」等では、一定の成果を上げており、子どもたちからの提案・発表等が地域の活性化につながっている。

③　基本的・総務的な事務の管理

（１）方針・事業計画の計画的実施、事務改善、事業の円滑な実施

【成果】

○国の動向を踏まえ、教育行政重点施策の策定等について審議を行った。

○施設整備としては、中学校給食棟外壁等非構造部材耐震改修工事、小学校遊具改修、幼稚園園庭フェンス設置を行い、教育環境を整えてきた。

○生涯学習課の事業については、事業評価シートで、事業の妥当性・効率性・公平性などの評価を行った。

【評価】

・小・中学校校舎の非構造部材耐震改修工事を適宜進めており、安心で過ごしやすい学習環境を整えているが、校舎の老朽化が進んでおり、今後とも国の補助金を活用した学校施設環境整備を積極的に進めていく必要がある。

④　人的管理事務

（１）　教職員等の人事

【成果】

○小中学校においては３５人以下学級を継続している。

○小１グッドスタートは、県の配置（４月～１０月）に加え、町独自で、１１・１２月を実施し、４月～１２月まで教育支援員を配置した。

○小中学校に学校司書を配置し、町立図書館と連携しながら、計画的な蔵書整備など図書館の環境整備を行い、読書活動の充実を図った。

○不登校対策として、小学校に登校支援員２名、中学校に自立応援室の教育支援員を配置し、登校しにくい児童への家庭訪問や別室登校の場の提供など、効果的な支援を行った。それに加え、中学校では、自立応援室専属の教員として、長期欠席・不登校生徒の学習支援・生活支援を行うとともに、何らかの要因で教室に入りづらくなった生徒が長期欠席・不登校にならないための一時避難としての支援を行った。

○業務アシスタントを、小中学校に配置し、働き方改革の充実を図った。

○ICT 教育支援員を配置し、タブレット端末等の積極的な活用に向け支援を行った。

【評価】

・教科担任制や学力向上を進めていくにあたり、小中学校に町費講師の配置を行い、効果的に運用できている。

・小中学校における３５人以下学級、小１グッドスタートの延長、教育支援員の配置は、個別の支援を要する子どもや落ち着いた学習環境のために継続していく必要がある。特に、自立応援室専属の教員が配置されたことにより、生徒の学校（教室）復帰に向け、より居心地の良い環境を設定することができている。自立応援室専属教員についても、落ち着いた生活環境のために継続していく必要がある。

・GIGA スクール構想の実現に向け、学習ソフトの導入や ICT 教育支援員を配置することで、教員の勤務負担の軽減につながった。しかし、各学校において、タブレット端末等の積極的な活用については、教員の活用は広がっているが、児童・生徒の日常的な活用までに至っていない。ICT 教育支援員と連携し、ICT 活用の好事例を学校種問わず共有し、推進していくことが望まれる。

（２）　教育委員会研修の実施

【成果】

○第２回学校教育ビジョン全体会では、岡山大学准教授中山芳一氏を講師に招き、「授業のユニバーサルデザイン」というテーマで講義・研修を行った。発達障害者の社会生活の困難さや、UDL を実現させるための３つの環境等について講義形式で理解を深めた。

○夏季研修会では、インクルーシブ教育の基本的な考え方について、青山新吾氏を講師に招き、個々が必要とする様々なニーズに対して「合理的配慮」を行いつつ、特別支

援教育の視点を取り入れた教育活動は通常学級の教育改革につながることについて、共通理解を図った。また、凸凹アクト・後藤崇氏を講師に招き、「療育との連携」をテーマに講義を行った。療育機関の専門的指導を行うためのアセスメントやアプローチ、指導の成果等を共有し、日々の生活指導において活用できるよう講義・演習を行った。

○採用５年目までの教員と講師を対象にした若手教員研修会では、道徳教育や学級掃除に関することについて、講師を招聘して講義・演習を行った。「心を育てる道徳教育の学習指導案の作成・模擬授業」「子どもたちの力を伸ばす学校掃除」について理解を深め、２学期からの実践につながる学びとなった。

○幼・小・中の支援員を対象にした特別支援教育支援員研修会では、栗尾康子氏を講師に招き、支援が必要な子どもに対して、どのように声をかけるか、誰もが分かりやすい支援とは何かなどについて事例をもとに講義・演習を行った。

【評価】

・学校教育ビジョン全体会や夏季教員研修会では、特別支援に関する研修を中心に開催するなど、インクルーシブ教育に向けて、早島町として一貫して取り組むことができている。また、早島町立学校園の取組だけでなく、外部機関と連携していく必要性についても共通理解を図ることができており、今後も継続した取り組みを実践していく必要がある。

・若手教員研修では、道徳教育の模擬授業や発表を通して、心を育む具体的展開について深く考えることができた。学校掃除に関することでは、清掃活動を通して児童生徒にどのような力を身に付けさせるのかについて考えを深めることができ、今後の活動場面で生かしたいという意見が多数あり、有意義な研修となっている。

・特別支援教育研修会は、昨年と継続して栗尾康子氏を招聘したことで、支援の方向性に統一感が生まれ、子どもの変化について相談しやすい雰囲気があり、支援員から好評であった。支援員だけでなく、通常学級でも生かせる内容であるため、教職員全体において周知していく必要があるが、中学校においても当該講師を招聘しており、教職員と支援員が支援の在り方について共通理解していくことができている。

4　学校教育重点事業に対する評価

①　数値結果

項目	県 （R５の現状）	県目標値 （R７）	早島小		早島中	
			R4	R5	R4	R5
全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との差（小６中３）	【小６】 国　：　0.8 算　：▼1.4 【中３】 国　：　0.2 数　：　0 英　：▼1.6 （▼マイナス）	全国平均 正答率 ＋１ポイント	【小６】 国 ：▼2.6 算 ：▼3.2 理 ：▼3.3	【小６】 国 ：▼1.2 算 ：▼5.5	【中３】 国 ：　3.0 数 ：　3.6 理 ：　2.7	【中３】 国 ：　0.2 数 ：▼4.0 英 ：　5.4
授業以外で平日に１時間以上学習する児童生徒の割合（小６中3）	小６　63.8% 中３　60.8%	73.0% 76.0%	56.4%	46.3%	57.9%	59.0%
「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童生徒の割合（小６中３）（A 評価）	小６　61.1% 中３　41.6%	70.0% 50.0%	57.3%	64.5%	62.0%	33.0%
「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答した児童生徒の割合（小６中3）（A 評価）	小６　78.9% 中３　65.7%	60.0% 50.0%	70.9%	71.1%	49.6%	65.0%
「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した児童生徒の割合（小６中3）（A 評価）	小６　45.6% 中３　38.6%	50.0% 50.0%	41.0%	46.3%	41.3%	37.0%
１週間の総運動時間数が 60 分未満の児童生徒の割合（小５中２）	小５男子 9.1% 中２男子 12.2% 小５女子 16.4% 中２女子 25.7%	5.2% 5.8% 11.0% 21.2%	小５男子 15.5% 小５女子 22.4%	小５男子 13.9% 小５女子 18.3%	中２男子 14.9% 中２女子 17.9%	中２男子 12.2% 中２女子 35.2%

○きめ細やかな支援の充実

項目	指標	評価方法	R4	R5	目標
児童生徒理解と個への対応	多面的な児童生徒理解や個への対応に努めている教員の割合（AB 評価）	教員 アンケート	小 93% 中 91%	小 87.5% 中 78.6%	小 90% 中 90%
教育相談の充実	悩み事や困ったことを相談しやすいと思う先生がいると思う児童生徒の割合（AB 評価）	児童生徒 アンケート	小 90% 中 75%	小 84.0% 中 78.7%	小 90% 中 75%

○小中一貫教育の推進

項目	指標	評価方法	R4	R5	目標
一貫教育の推進	校種間の連携を大切にした教育活動を行っている教員（AB 評価）	教員アンケート	小 88% 中 78%	小 83.0% 中 73.3%	小 80% 中 80%
	保幼小中が一貫した教育活動に取り組んでいると思う保護者（AB 評価）	保護者アンケート	小 89% 中 81%	小 91.0% 中 83.6%	小 90% 中 80%
授業研究の推進	授業は分かりやすいと思う児童生徒（AB 評価）	児童生徒アンケート	小 94% 中 83%	小 94.0% 中 92.9%	小 90% 中 85%
探究的・協働的な取組	生活・総合的な学習の時間に、問題解決に向けて自ら熱心に取り組んでいる教員（AB 評価）	教員アンケート	小 96% 中 86%	小 93.0% 中 75.0%	小 90% 中 90%
地域貢献活動の推進	地域の行事に参加している児童生徒（AB 評価）	児童生徒アンケート	小 60% 中 44%	小 70.0% 中 48.7%	小 60% 中 50%

○ＩＣＴ教育の推進

項目	指標	評価方法	R4	R5	目標
ＩＣＴ機器等の活用	児童生徒の興味・関心を高めるため、効果的にＩＣＴ機器を活用している教員（AB 評価）	教員アンケート	小 100% 中 96%	小 97.0% 中 78.6%	小 90% 中 90%
	ＩＣＴ機器を使った授業が分かりやすいと思う児童生徒（AB評価）	児童生徒アンケート	小 93% 中 82%	小 92.4% 中 92.3%	小 90% 中 90%

○「はやしま学」の充実

項目	指標	評価方法	R4	R5	目標
はやしま学協働本部との連携	スタディ・パスポート（はやしま塾等）を積極的に活用する児童生徒	一週間の平均参加者数	小 179 名 中 12 名	小 146 名 中 4 名	220 名 50 名
	英検・漢検・数検に参加する児童生徒	延べ参加者数	小 190 名 中 316 名	小 153 名 中 268 名	250 名 350 名
	学校外の人材活用を進めていると思う保護者	保護者アンケート	小 80% 中 79%	小 84.1% 中 81.3%	85%

○グローバル人材育成事業

項目	指標	評価方法	R4	R5	目標
外国への理解	英語暗唱大会に参加する児童生徒	参加者数	小 6 名 中 21 名	小 15 名 中 15 名	小 20 名 中 25 名
	土曜英会話塾に参加する児童及びアシスタントとして参加する生徒	参加者数	小 20 名 中 1 名	小 23 名 中 2 名	小 25 名 ―

② 重点事業

重点項目	長期欠席や不登校を減らすための支援体制の強化と、生徒の心のケアを重視した教育環境の整備
目　的	児童・生徒が安心して学校生活を送ることができる環境をつくる。
計　画	・全ての学校教育活動が、心の居場所づくり、仲間の絆づくりを意識した取組となるよう、全教職員が意識できるよう研修等で周知していく。 ・不登校や長期欠席に対する担当者会を年５回開催し、学校教育現場や地域の関係機関と協働しながら、生徒の状況を共有し、個別に対応するための支援体制を整備する。 ・児童・生徒が学校に来ることが困難な場合には、適応指導教室（ふれあい教室）等において、個別に合わせた支援を行う。 ・不登校や長期欠席の生徒に対しては、自立応援室に担当の教師を配置し、学校（教室）復帰に向けた学習支援・生活支援を行う。
成　果	○不登校対策担当者会に、健康福祉課、登校支援員、ＳＳＷ、備中保健所担当者も参加し、校種を越えた情報連携や支援の方向性の協議を行うことで学校園と関係機関の連携強化を図った。また、総合教育センターとも連携し、オンライン相談室についての情報を共有したり、中学校３年生が卒業後に支援がなくなることから、事前に行政につなぐべき生徒をピックアップして健康福祉課と情報を共有したりするなど、会の充実を図ることができた。 ○教室に入りにくい長期欠席、不登校児童生徒について、小中学校では自立応援室での居場所づくりをサポートすることができた。特に中学校においては、自立応援室専属の教員を配置することで、より居心地の良い環境を整備することができた。この情報を小学校とも共有することで、小学校においても自立応援室の環境整備を進めることができた。 ○小学校では、登校支援員２名、小１グッドスタート５名、生活支援員８名を配置し、個に応じた支援を行うことができた。 ○新規不登校者数を抑制するために、魅力ある学校づくりの観点から、学校教育ビジョンと連携して安心して学校で過ごすことができるような取組を行うことができた。また、継続不登校者数を改善するために、ステップアップ支援シートや支援対象者リストを活用し、支援の在り方について協議することができた。
今後の方向性	・小１プロブレムの解消のため、スタートカリキュラムの更なる充実と、支援員の継続した配置を進める。 ・特別支援教育の視点から、通常学級における特別な支援を要する児童生徒に対しても、個別の合理的配慮を行うことができるよう、研修を実施し、専門性を高めていく。

重点項目	個々の生徒のニーズに応じた支援の充実
目　的	特別支援教育に関する専門的な知識や技術を身につけ、それを生かして、個々の児童・生徒のニーズを正確に把握し、適切な支援を提供することで、特別支援教育を充実させる。
計　画	・生徒一人ひとりの学習進度や理解度に合わせた学習支援を実施する。 ・一人ひとりに合わせた教材選定や学習指導法の工夫、個別の補助教材の提供などを行う。

	・児童・生徒や保護者とのコミュニケーションを密にし、個々のニーズを正確に把握する。 ・特別支援教育に関する研修を積極的に行い、最新の情報や知識を取り入れる。 ・教育ソフト「LITALICO」の活用に向けて、先進校視察で得た情報などを基に教員同士でノウハウを共有する場を設ける。
成　果	○教育ソフトを活用していくための１年間の流れを作成し、特別支援学級担任で共通理解を図ることができた。また、教育ソフト内のアセスメントを使用することは、どの児童にも同じ質問項目を行うことができるため、今までよりも客観的に児童の的確な把握ができた。 ○特別支援学級で研究授業を行うため、「個別最適化」の指導や支援の在り方について、協議を深めることができた。また、教材研究や指導案を検討する中で、ICTの活用方法について情報共有を行うことができた。 ○個別最適化された学びの研究を進めるために、授業モデル開発推進メンバー（校内５名で構成）を組織した。教育ソフト活用研修を行い、個別の教育支援教育・指導計画づくりに役立てることができた。
今後の方向性	・教育ソフトを活用したアセスメントを通じて「適切な実態把握」を行い、個別の教育指導計画の活用、引継ぎについて、今後も重視して取り組み、学級担任の専門性向上を目指していく。 ・「個別最適化された学び」に焦点を当て、教育ソフトを活用したアセスメントに基づいた指導の充実を図るため、複数学年が在籍する場合の ICT を活用した授業づくりに力を入れたり、通常学級との連携を促進したりすることで、児童生徒の学びの最適化を学校全体として取り組む。 ・特別支援学級担任のスキル向上や働きやすい環境の整備、専門性向上を継続的な取組にしていくために「効果的な研修」を行う体制を整備する。

重点項目	夢育の推進
目　的	児童生徒の意欲やモチベーションを高め、学習への取り組みや将来の進路選択につなげること
計　画	・PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）を取り入れ、児童生徒が地域や社会の問題解決に向けたプロジェクトに取り組む機会を増やすことで、自己実現や社会貢献の意識を高める。 ・非認知能力の育成にも注力し、自己肯定感やコミュニケーション能力、やり抜く力などを育てることで、将来の進路選択や人生における自己実現につながる力を養う。 ・学校と地域の連携を深め、地域の資源を活用したプログラムを実施することで、児童生徒の視野を広げ、夢や目標を見つけるきっかけを提供する。
成　果	○早島中学校２年生の総合的な学習の時間の取組の成果として、「はやしまの日」を設定し、早島町内外に広く、早島町の魅力を発信することができた。探究的な取組を推進するために、キャリアリンクと連携し、研修の実施や発表資料の点検・地域と連携するためのアドバイス等を、密に行うことができた。

今後の方向性	・PBL の理解が一部の教員しか進んでいないことが、現状の課題として挙げられる。改めて、小中学校の教職員に向けて、PBL についての理解を深めるための研修を実施する。

重点項目	社会とつながり未来を拓く「はやしま学」の充実
目　的	早島町学校教育ビジョンに基づき、「はやしま学」の充実を図る。
計　画	・教育支援コーディネーターを中心に支援体制を構築し、放課後・土曜はやしま塾を支援する大学生や留学生の確保、地域住民等による「早島っ子サポートボランティア」の人材確保をする。 ・長期休業中に４年生～６年生を対象に「わくわくサマーホリデー」を開催し、地域の方や学生ボランティアを講師として学習や体験活動の充実を図る。 ・「子ども議会」「子どもと大人の熟議」「はやしま子どもフォーラム」「早島英 語暗唱コンテスト」「中学生だっぴ」等を活用し、社会に開かれた学びの場づくりを行う。
成　果	○土曜日や長期休暇など休日の学習習慣を定着させると共に、地域ボランティアや大学生のサポートで、異学年の児童と一緒に自ら「めあて」を立て学習することで、学びあいの心が育まれた。
今後の方向性	・自発的に学習が進められる児童と、学習支援を必要とする児童を一緒にサポートすることに限界がある。より適した学習形態を模索して支援していく。 ・英会話塾の内容に検定対策を追加し、中学生のはやしま塾への参加を募る。

5　生涯学習重点事業に対する評価

①　重点事業

重点項目	社会教育施設等整備事業
目　的	施設の整備を行い、個々の学びに応える環境づくりを目指す。
計　画	・町民総合会館の火災報知器取り換え・外壁補修工事を行い施設の環境を整える。 ・中央公民館の照明について順次取り換えを行い、学びの環境整備を行う。 ・戸川家陣屋の堀浚渫を行い、文化財保護と環境整備を行う。
成　果	○町民総合会館の火災報知器取り換え・外壁補修工事、中央公民館の内部照明、外灯、空調機器の修繕等を行ったことで、利用者がより安心して利用できる環境を整えることができた。 ○中央公民館の照明について順次取り換えを行い、学びの環境整備を行うことができた。 ○戸川家陣屋の堀浚渫を行ったことで、文化財保護と環境整備を行うことができた。
今後の方向性	・町民総合会館については、非常用照明、中央監視装置の更新等、環境整備を順次行っていく。 ・中公民館についても、日常点検を行いつつ、設備の更新を行っていく。

重点項目	社会教育推進事業
目　的	家庭教育支援チームによる子育てや家庭教育の支援、親育ち応援プログラムのファシリテーター養成と親育ち応援プログラム等の実施、プレーパークによる親の集いの場づくり等を一体的に行い、地域全体で家庭教育支援をする体制の構築を進める。
計　画	・家庭教育支援チームによる、子育てや家庭教育の情報提供や相談、親育ち応援学習プログラム等の実施による保護者の学びの場づくり、各種講座や教室による保護者同士の仲間づくりの支援を行う等、一体的な家庭教育支援を支援する。 ・「すくすくハート」会議により、町内の家庭教育関係者の情報共有を行い、家庭教育支援の仕方を検討する。 ・親育ち応援学習プログラムのファシリテーター養成を行い、保護者同士の学び合いを推進し、家庭教育推進の人材育成を行う。
成　果	○「すくすくハート」の会議で協議を進め、他組織との連携や、情報誌の作成、更新等を行ったことで、家庭教育支援体制の強化につながった。 ○親育ち応援学習プログラムのファシリテーター養成を行い、新たに３名のファシリテーターを養成した。
今後の方向性	・親育ち応援学習プログラムについては、幼稚園行事、町内の子育て支援団体活動内等、実施の機会を広げることで、ファシリテーターが活躍できる環境を整備する。

重点項目	青少年活動推進事業
目　的	学習支援や体験活動を中心とした地域ぐるみの教育体制を築きながら、郷土愛を深め、学びを通して地域の活性化に繋げる。
計　画	・ロゲイニング等、地域を学びのフィールドとした活動的な学びの場を提供し、郷土愛の育成につなげる。 ・英語塾や英会話体験など子どもたちの学ぶ意欲や知的好奇心などを高める。 ・地域の指導者等による長期休業中の小学生に、「わくわくサマーホリデー」を開催し、様々な体験活動によって視野を広げる。 ・数学検定・漢字検定・英語検定３級以上の取得を目指し、支援体制をつくる。 ・地域の方や教職員等がスタッフ・講師として参加するなど、地域ぐるみで子どもを育てる教育体制の構築を目指す。
成　果	○地域の方の協力を得ながら学習支援や体験活動を中心とした事業を行うことで、地域ぐるみの教育体制を継続し、学ぶ意欲を育てるとともに地域の活性化に寄与することができた。
今後の方向性	・地域ぐるみの教育体制を継続するために、新たな地域人材の確保や、スタッフの養成等を進めていく。

重点項目	部活動の地域移行を見据えた環境等の整備に関する事業
目　的	学校と地域が協働・融合したスポーツ環境等の整備を進める。
計　画	・部活動地域移行の受け皿づくりとして、指導者の確保や総合型地域スポーツクラブの立ち上げ等を学校教育課と連携し、民間企業等の協力を得ながら進めて

	いく。 ・体育施設等の修繕や改善を段階的に行い、効果的な学校開放の実施と併せて活動環境の整備を進める。
成　果	○学校教育課と連携し、民間企業や他自治体との情報共有、今後の体制整備のための協議を進めることができた。 ○グラウンドを中心に、体育施設の老朽箇所の修繕を順次行った。
今後の方向性	・先進地の事例研究や、民間企業等との協議を進め、具体的な業務内容を折り込んだ仕様書を作成する。

重点項目	はやしま学推進事業
目　的	地域の方に生涯学習の場を提供するとともに、学びの成果を地域に生かす生涯学習のリーダーを育成する。
計　画	・地元企業・団体・大学との連携や小学生との合同実施をさらに増やし、地域への愛着や誇りを育てる大人はやしま塾として、学びを通して地域の活性化につながる講座になるよう工夫する。 ・受講者が取得した単位により、サポーターや講師に認定し、講座の運営や講座の企画等に参画できるよう、講師認定者での講座の実施を進める。 ・地元の学習資源の活用や小学生講座との合同実施等を増やすことで、地域を教材に大人と子どもが共に学ぶことができる講座を目指す。
成　果	○地元企業や美術館、大学等と連携した講座や、地域の学習資源を活用した講座を実施することで、受講者が地域の活性化に興味を持つきっかけ作りができた。 ○受講者のニーズに合わせた多様な講座を実施することで、新規登録者が増加した。
今後の方向性	・若い世代が参加しやすい講座内容や実施日を検討し、参加者の掘り起こしを進める。

はやしま学推進事業

土曜日等教育支援

◆学力・体力向上
・土曜はやしま塾
・わくわくサマーホリデー
◆グローバル人材の育成
・土曜英会話塾
・英語暗唱大会
・子どもカレッジ体験
◆地域発信の場づくり
・子ども議会
・熟議
・はやしま子どもフォーラム
◆ボランティア活動の推進
・「ボランティアパスポート」　の活用

放課後教育支援

・放課後はやしま塾
・放課後子ども教室

学校支援
（はやしま学協働本部）

◆授業等の学習支援
・学校行事支援
・授業支援
・学校環境整備
・登下校の見守り
・放課後学習支援

地域未来塾

◆地域での学習支援
・はやしま塾
・英語、漢字、数学検定
・Web 教材の活用
◆地域での体力向上
・総合型地域スポーツクラブ

家庭教育支援

◆「親育ち応援学習プログラム」養成講座の開催
◆「親育ち応援プログラム」ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰによる保護者支援
◆教育相談活動等の実施
・保護者との教育相談
・ケース会議の実施
◆就学前の保護者支援
・プレーパークの定期的な開催
・「すくすくハート」子育て相談
・「子育てサロン」の広報
・ブックスタート
◆よりよい生活習慣づくり
・「チャレンジカード」の実施
・「リミットスクリーン」の徹底
・「スタディパスポート」の活用

重点項目	町民総合会館運営事業
目　的	町民の芸術・文化意識の向上と地域の活性化を図るため、他課と連携して、様々なジャンルのものを気軽に鑑賞する機会の提供を行う。
計　画	・地域の芸術文化拠点として芸術文化事業を開催し、近隣地域を含めた地域の芸術文化振興を行う。 ・「ハヤシネマ」による名作映画の上映を行い、芸術鑑賞を通して町の活性化につなげる。 ・町民に成果発表の場を提供することを目的に、文化ホールとスタインウェイピアノを活用し、ピアノリレーコンサートを開催する。 ・ウィークエンドコンサートを出演者との協働事業に位置付け、毎月２回実施して活性化を図る。
成　果	○新型コロナウイルスが５類に移行したことに伴い、合唱等制限があった催しついて、コロナ禍前の開催内容に戻すことができ、内容を充実させて開催することができた。また、それに伴い、来場者数についても、以前の数字に戻りつつあり、少しずつだが日常が戻ってきたことを実感することができた。 ○ハヤシネマは、今年度、話題作を中心に上映した成果により、昨年度より大幅に来場者が増えた。 ○ウィークエンドコンサートは今年度から月１回（第４金曜日）→月２回（第２・４金曜日）に変更した。また、第２金曜日を生演奏限定会としたため、第２、第４それぞれ特色ができ、来場者を飽きさせないような工夫ができた。
今後の方向性	・リレーコンサートやウィークエンドコンサートなど地域住民の参加型のイベントを充実させる。

重点項目	図書館運営事業
目　的	図書館機能を活かした読書活動の充実を図る。
計　画	・「第３次早島町子ども読書活動推進計画」に基づき、システム・人的両面で学校園、地域や図書館ボランティアとも連携しながら、子どもの読書活動の推進を図る。 ・読み聞かせや、図書館講座、職場体験等、講座や体験活動の充実を図り、町立図書館にできるだけ多くの町民が来館するための工夫を行う。 ・アンケートの分析をもとに、電子図書館、資料のデジタル化の有用性や可能性を検証する。
成　果	○開館25周年を迎え、記念セレモニー、記念ワークショップを無事に行うことができたほか、古典文学講座、歴史講座、人権講座等質の高い講座を実施できた。また、恒例となっている図書館ボランティアと共同したお話会等も中止することなく実施できた。コロナ禍で実施を見合わせていた職場体験の依頼も増えてきており、今年度は5校を受け入れた。 ○一昨年度実施した図書館利用についてのアンケートの分析と報告書をまとめた。
今後の方向性	・引き続き、子どもの読書活動や講座・体験活動の充実を図りながら、広域利用やアンケート結果を活用した事業を工夫する。

各種イベント等の取組の成果

（１）備中はやしま夏まつり

中央公民館の盆踊り大会から始まったイベント。４年ぶりの実施となる今年度は、南グランドでの町内団体、クラブ・グループによる模擬店と盆踊りコンテスト、ゆるびの舎でのキッチンカー、ステージイベントを中心に、分散型による実施とし、非常に多くの参加者でにぎわうイベントとなった。また、会場の設営等を業務委託により実施することで、効率的に準備を進めることができた。その反面、想定を超える集客があったため、当日の運営・安全管理に課題を残した。次回以降は、業務委託の範囲を広げる等、実施方法を検討する。

（２）町民運動会

参加者の募集に苦慮する自治会も多く開催方法の検討が必要であったため、自治会向けにアンケートを実施。その結果、約半数の自治会が、従来の実施方法では参加が困難との結果となったため、今年度の実施は見送り、来年度以降の新たなイベントを検討するための検討委員会（全４回）を開催。町民運動会に代わる新たなスポーツイベントを検討した結果、自治会への参加は強制とせず、自治会をはじめとした町内団体が自由に参加できる内容で実施することが決定した。

（３）生涯学習まつり

いきいき広場では、食品の模擬店を再開し、１１団体の参画を得たことで、コロナ禍前の賑わいを取り戻す第一歩となった。他の事業もおおむね例年通り実施することができ、クラブ・グループ活動や、町教育行政の周知に繋がった。発表会や展示等に参加するクラブ・グループが年々減少しているため、今後はより参加しやすい内容となるよう検討していく。

（４）花ござピンポンチャンピオン大会

中学校のカリキュラム変更に伴い、例年中高生が参画していた検討委員会を実施せず、生涯学習課が企画・運営を行った。運営方法の変更に伴い、大会名称を、「世界大会」から、「チャンピオン大会」に変更したが、定員を超える申込があり、好評だった。中学生の参加が限定的になり、当日の運営ボランティアが不足したため、参加者による相互審判のルールを取り入れたが、大きなトラブルは発生しなかった。

（５）二十歳のつどい（旧成人式）

新成人の実行委員会による協議を重ね、例年通り実施できた。コロナの影響で中止していた茶話会を再開することもできた。

（６）マラソン大会

昨年度に続き、ＷＥＢによる参加募集で実施した。会場内での飲食スペースの再開、

コース上の安全対策強化等を行ったことで、参加者からは高評価を得たとともに、警察からの要望にも答え、安全に実施できた。今後は、駅伝の再開に向けて、実施方法を検討していく。

（７）町民ソフトボール大会

自治会や町内企業を中心に、前回大会を超える１８チームが参加し、ソフトボールを通して交流団体間の親睦が深まった。南グランドでは、打球がネットを越え隣接する民家や保育園に当たるトラブルが頻発したため、飛びにくいバットやボールを採用する等の対策が必要。

社会教育施設等の取組

（１）中央公民館・コミュニティ施設

中央公民館・コミュニティ施設は、地域の人々が主体的に学び、交流する場であり、また、ボランティア活動・地域コミュニティ活動など地域の社会教育活動を推進する場でもある。社会教育関係団体、スポーツ少年団や子ども会、生涯学習クラブ・グループ、自治会・町内会の活動等、町民の主体的な学びや活動を支援する。

（２）図書館

町立図書館として早島町内全体の読書環境の充実を図る。また、図書館ボランティアとの共同、講座や体験活動の実施、図書館アンケートの活用、高梁川流域と岡山連携中枢都市圏の広域相互利用の活用等により、地域の中核図書館として住民との連携や交流を図る。

（３）町民総合会館

町の賑わいの拠点となるように、スタインウェイピアノを使った音楽会、名作映画の上映など文化ホールの自主事業の充実により、心と身体の健康づくりに寄与する。

（４）いかしの舎

指定管理者により柔軟な発想で企画・運営を行い、より充実したサービスの提供を行う。あわせて、令和5年度からの3年間指定管理者のもとで運営する。

（５）歴史民俗資料館・花ござ手織り伝承館・戸川家記念館

歴史民俗資料館・戸川家記念館の来館者が少しずつ回復傾向にあるため「ハヤシネマ」 との連携により、魅力発信に努める。また、花ござ手織技術の伝承に資するように専門職員と技術継承者による協議の場を設け、人材育成や手織り技術の保存について取組を推進する。

（６）矢尾グラウンド・ゴルフ場

多くの方が利用しやすいよう、サマータイム（６月～９月）に取り組むとともに、管理運営の在り方についても協議を行い、環境整備等にも配慮していく。

来年度の主要事業スケジュール

令和6年度　主要事業の日程

生涯学習課

日　時	曜　日	事　業　名	場　所
令和6年5月12日	日	子ども会野外研修	城山公園
令和6年7月14日	日	アンサンブル早島サマーコンサート2024 in YURUBI	町民総合会館　文化ホール
令和6年7月15日	月	吹奏楽フェスティバル2024 in ゆるぴ	町民総合会館　文化ホール
令和6年7月17日	水	人権教育講演会	町民総合会館　研修室
令和6年8月3日	土	備中はやしま夏まつり	南グランド　外
令和6年10月6日	日	早島町体育祭（仮称）	南グランド　外
令和6年10月13日	日	クラブグループ発表会/生涯学習まつり（～11/3）	町民総合会館、公民館　外
令和6年10月19日	土	みんなのスタインウェイ・ピアノリレーコンサート	町民総合会館　文化ホール
令和6年10月27日	日	はやしま和太鼓フェスティバル2024	町民総合会館　文化ホール
令和6年11月3日	日	生涯学習まつり・いきいき広場	中央公民館　外
令和6年11月17日	日	早島町民ソフトボール大会	南グランド、深砂グランド　外
令和6年12月7日	日	第５回早島花ござピンポンチャンピオン大会	早島中学校　体育館
令和6年12月15日	日	早島ふるさと音楽祭2024	町民総合会館　文化ホール
令和7年1月12日	日	早島町二十歳の集い	町民総合会館　文化ホール
令和7年1月13日	月	第9回“ゆるぴ”ニューイヤーコンサート	町民総合会館　文化ホール
令和7年1月22日	水	人権教育講演会	町民総合会館　研修室
令和7年1月26日	日	岡山晴れの国駅伝競走大会	旭川・百間川ランニングコース
令和7年2月2日	日	第１４回早島町マラソン・駅伝大会	早島町役場周辺
令和7年2月16日	日	第２５回”ゆるぴ”コーラスフェスティバル	町民総合会館　文化ホール
令和7年2月23日	日	アンサンブル早島　第25回定期演奏会	町民総合会館　文化ホール

毎月	第3土曜日	プレーパーク	ぞうさん広場　外
毎月	第3日曜日	「家庭の日」南グランド開放	南グランド
毎月	第2・第4金曜日	”ゆるびＷＥＥＫＥＮＤコンサート”	町民総合会館　エントランスホール

Ⅳ　第５次早島町総合計画の評価項目について

	第５次早島町総合計画　評価項目	令和４年度	令和５年度
1	ゆるびの舎　近隣市町村を巻き込んだ発表会	4 回	4 回
2	優れた芸術文化に触れる機会	5 回	5 回
3	体育施設利用者	304,679 人	313,054 人
4	スポーツグループ	69 団体	69 団体
5	スポーツ教室・大会	4 回	4 回
6	放課後子ども教室参加人数	81 人	74 人
7	放課後はやしま塾参加人数（延べ人数）	2,095 人	2,293 人
8	土曜はやしま塾参加人数（延べ人数）	1,269 人	1,072 人
9	放課後はやしま塾指導者人数	349 人	217 人
10	土曜はやしま塾指導者人数	195 人	181 人
11	英会話塾・イングリッシュバス参加者	178 人	228 人
12	中央公民館・コミュニティ施設利用人数	56,399 人	68,355 人
13	社会教育施設で新たに活動を始めたグループ	4 団体	1 団体
14	公民館・図書館講座参加者	728 人	837 人
15	図書館利用者	29,910 人	30,037 人
16	戸川家記念館来館者数	236 人	607 人
17	民俗資料館来館者数	655 人	1,001 人
18	まなびの舎新規講師認定者数	2 人	1 人
19	まなびの舎新規サポーター講師認定者数	1 人	3 人
20	ゆるびの舎ホール利用回数	230 回	254 回
21	ゆるびの舎ホール利用者数	24,500 人	27,727 人
22	ゆるびの舎トレーニング利用者	11,400 人	12,182 人
23	ゆるびの舎バーデルーム利用者	10,100 人	10,231 人

令和６年３月末

Ⅴ　点検・評価に関する有識者からの意見

岡山大学教育推進機構　准教授　中山　芳一

■教育委員会活動について

月 1 回の教育委員会会議の定期的な開催や年２回の町長との総合教育会議、学校関係者や学校運営協議会委員など様々な立場の方々との熟議を重ねて、教育委員会が地域に開かれて前に進んでいることは、関係各位お一人お一人の当事者意識を高める上で大切であり、欠かせないことでもあります。さらに、教育委員会会議については事前の資料配付だけでなく、議事録の公開まで行ってこられたことは教育の中立性や継続･安定性の保証ができており、その努力に深く敬意を表します。

また、新型コロナウイルス感染症の流行により開催が危ぶまれる中、学びの歩みを止めることのないよう、感染症対策を行った上で「子どもと大人の意見交流会（熟議)」は年々回を重ねるごとに充実してきており、「協働・協学・協育の町づくり」が着実に進んでいると思います。このように、様々な世代が共に語り合う場を継続的にもつことで、「地域とつながり未来を拓く早島っ子」が育つだけでなく、地域の大人達もそれぞれの立場から課題解決に取り組もうとする「当事者意識」を生み出せているように感じられます。

他にも、学校施設の改修や人的配置については、限られた予算であり、評価にも記載のとおり計画的・継続的に整備を進めていく必要があります。学校の外壁等非構造部材耐震改修工事など、安全や健康面に配慮した改修は必要不可欠です。第 5 次総合計画等の方針に基づき、前向きな取組を意図的・計画的に推進することで「早島町学校教育ビジョン」がさらに充実したものになることでしょう。

■学校教育について

学校教育では、小学校高学年における教科担任制及びチーム担任制を推進するなど、小中学校間に一貫性のある授業づくりが進められています。また、ＥＳＤとキャリア教育の視点から、ＳＤＧｓのゴール目標を踏まえた総合的な学習の時間のカリキュラムや、幼保園・小学校・中学校での非認知能力の育成も着実に進められています。特に、ＥＳＤにいち早く取り組んできたアドバンテージを生かして、自治体単位で非認知能力の育成に関する体系化が図られた点は県内でも類を見ない取り組みといえるでしょう。なお、この取り組みが実現できたのは、学校教育ビジョン推進委員会の定期的な開催が背景にあることがわかります。委員会内の３部会９グループによって、早島町が目ざす子ども像を踏まえた「１５年かけて育みたい力」を明確にすることができたのも早島町のチームワークのなせる業ではないでしょうか。

地域における「はやしま学」では、土曜・放課後はやしま塾、土曜英会話塾など、地域に様々な学びや体験の場が用意されており、スタッフのチームワークのすばらしさに感心しています。また、英語・漢字・数学検定を年３回ずつ実施し、英検無料応援制度を設けたことで受験者数が増加していることから児童生徒の学びへの意欲を感じます。英語暗唱コンテストの参加者も増加傾向であり、英語力向上へのニーズの高まりを感じるとともに、こうした機会を設定している「はやしま学協働本部」の充実は模範になるものだと思います。

さらに、ＧＩＧＡスクール構想の実現に向けて、「教育の情報化推進委員会」を定期的開催し、推進リーダーの育成に努めるとともに、校内で伝達研修を行うことで全教職員の指導力の向上を図ったことは、ＩＣＴを活用した児童生徒の主体的で協働的な学びに繋がっているでしょう。今後も、全教職員が全教科で、一人一人に応じた学習や協働学習を積極的に行うことで、誰一人取り残すことのない教育の実現に向けて、計画的・組織的に教員の指導力を高める取り組みをより一層進めてください。

■生涯学習について

早島町では学校教育と生涯学習の融合のもと、学校教育ビジョンの目指す子ども像「地域とつながり、未来を拓く早島っ子」の育成を目指し、全ての町民が学び合い、育ち合う環境をつくることで、「協働・協学・協育」の町づくりを進めています。「花ござピンポンチャンピオン大会」の取組は、伝統文化や郷土への誇りや早島の魅力を発信することができるすばらしい大会です。また、地域ぐるみによる教育体制の充実を図るために、放課後や土曜日を活用した「はやしま塾」や長期休業中の「わくわくサマータイム」を実施し、子どもたちの知的好奇心を高めていることは、“協働・協学・協育”の町づくりにつながる具体的な方法の一つであり、大きな成果だったと思います。

また、家庭教育支援チーム「すくすくハート」を中心とした保護者の子育て相談、保護者がファシリテーターを務める「親育ち応援学習プログラム」等による親同士の学び合い、就学前の幼児を対象としたプレーパークの定期的な開催など、子育て世代の多い早島町で家庭教育支援が年々高まってきていることもすばらしいです。他にも、総合型地域スポーツクラブの主体的な取り組みへの移行や、ゆるびの舎での「ハヤシネマ」「ニューイヤーコンサート」等芸術文化の提供、図書館活動の充実等、今後の課題も踏まえながら「生涯学習のまち・早島」として、地域の教育力がより一層充実するような取り組みを進めてください。

■今後に向けて

行政・学校園・地域が様々な場を通じて創り上げてきた学校教育ビジョンが浸透し、その取り組みの効果が着実に表れてきていると感じます。今後、早島の教育が未来へ受け継がれ、持続可能なものとなるためには、これまでの取り組みを多面的・複眼的に振り返り、その効果を見極める必要があります。また、その上で各取り組みの内容・方法・構成などをさらに精緻に改善して、「神が細部に宿った取り組み」が早島町で体現できることを大いに期待しています。来年度も、皆様方のすばらしいチームワークで、本稿で述べた諸事務･事業に対する意見を参考にして、学校教育ビジョンの更なる具現化を大いに期待しています。

Ⅵ　おわりに

本年度の点検・評価につきましては、事前に教育委員会が立てた方針・目標に沿って、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後に評価したものです。各事業の目的・計画を掲げ、それに対する成果と課題、今後の方向性を記載しています。それをもとに、岡山大学　中山芳一准教授から、点検・評価をしていただき、ご意見や今後の方向性についてご示唆をいただきました。

本年度は、５月に新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけが５類相当に移行し、コロナ禍以前の学校園生活にもどりつつある中、学校園行事の見直し等を通して働き方改革が一層進みました。また、小中学校での学習指導要領の着実な実施に伴い、ＧＩＧＡスクール構想の加速化による一人一台端末の活用や学校におけるＩＣＴ環境整備を計画的に進める上で、次の段階を見据える時期になりました。令和３年１月に中央教育審議会において取りまとめられた「令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」においては、学習指導要領を着実に実施する中で、子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と子ど

もたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」を一体的に充実することの重要性が提言され、これまでの授業実践に加えて、ＩＣＴの新たな可能性を指導に生かすことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を一層推進していくことが重要であると考えています。

本町では、平成２５年１０月に中長期的な見通しをもった「早島町学校教育ビジョン」を策定し、「地域とつながり未来を拓く早島っ子」の育成に向けて、「保幼小中の連携強化と小中一貫教育の推進」、「町民とともに学び地域を考えるはやしま学の実施」、「学校園と地域が連携し早島っ子を育てる仕組みの拡充」を３つの重点項目に掲げ、取り組んできました。平成２７年度から、早島町第４次総合計画に合わせて、「早島町学校教育ビジョン」を全面実施し、「教育のまち・早島」宣言を行うとともに、その更なる具現化に向けて取り組んでおります。さらに、令和４年度からは、前年度策定された第５次総合計画の実現に向け、「早島町学校教育ビジョン」を、より持続可能な教育活動として推進しています。

こうした中、早島の伝統文化であるイ草とスポーツを融合させた「花ござピンポン」のアイデアを生かした「世界大会」は「チャンピオン大会」と名称を変更し、大勢の方に感染症予防対策をした上で参加していただきました。従来の早島中学校の商品開発を通した成果は、それとは別日に開催された、早島魅力 UP 大作戦の一環としての「はやしまの日」に継承され、初めての開催ながら、いかしの舎や観光センターなどを巻き込み、大きな成果を収めました。また、土曜英会話塾、英語暗唱大会などを通して、地域理解や国際的視野を広げてきました。ＳＤＧｓカードゲームや地域フィールドワークなどを行うことで、生涯学習課と学校教育課との融合のもと、キャリア教育の視点を踏まえて、「協働・協学・協育」の町へと一歩ずつ着実に進んでいると確信しています。

また、保幼小中一貫教育に向け、町全体でＥＳＤ研究に取り組むことで、生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムの再構築を図っています。キャリア教育の視点と非認知能力の育成に向けて、中学校区で一体となった研究を進めることは、児童生徒の社会貢献意識を高めると同時に、地域社会の抱える問題を自分のこととして捉え、自己の夢や生き方を見つめなおすよい機会となっています。地域のヒト・モノ・コトと連携・協働した探究活動で児童生徒の活躍の場が学校内外に開かれ、住民の学校理解や児童生徒の郷土愛がより深まっていくことを期待しています

今後も、持続可能な早島の教育の実現を目指して、教育施策や活動事業の点検・評価に、エビデンスから見える現状をきちんと分析・検証し、小中学校の一体的な教育課程の編成に取り組んでいきたいと考えています。これからも、「早島の子どもたちの成長のために」を合言葉に、早島の未来を見据えた教育行政の充実を行政・学校園・地域と一体となって取り組んでまいります。